第１１節　関連団体

１　財団法人大牟田市雇用開発センター

（1）雇用開発センターの概要

＜設　立＞

法 人 格	財団法人
基 本 金	１千万円（大牟田市）
設立許可	昭和 59 年 10 月 9 日(10 月 14 日登記) (昭和 57 年 1 月 29 日任意団体設立)
所 在 地	大牟田市北磯町 81 番地 2

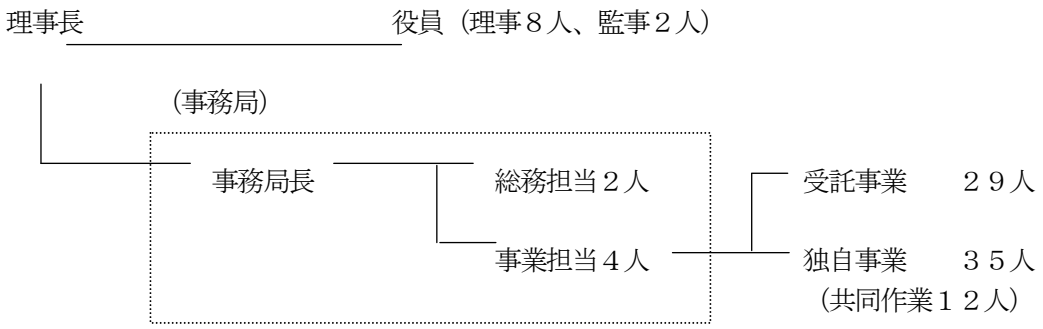
＜目　的＞

市内に居住する高年齢者、障害のある人及び母子家庭（以下「高年齢者等」という。）に対する雇用の開発と促進を図るとともに、公共施設管理の受託事業等を行うことにより市民の生活安定とコミュニティー活動を促進し、地域の活性化と福祉の向上に寄与する。

＜事業内容＞

（1）高年齢者等に適した仕事に関する情報活動及び調査研究に関すること。
（2）大牟田市障害者等文化体育施設サン・アビリティーズおおむた、その他公共施設の管理運営の受託、及び当該施設の利用増進に関すること。
（3）高年齢者等に対する生涯教育、能力開発、研修及び生きがい対策に関すること。
（4）その他目的を達成するために必要な事業。

＜機　　構＞　　（平成２０年３月３１日現在）



（2） 受託事業

1）施設管理等と雇用実績

（単位：人）

事　業　名	Ｈ１８		Ｈ１９		備　　考
	在職者	退職者	採用者	在職者	
夜　間　警　備	10	10	2	2	保健所、母子生活支援施設
夜　間　管　理	28	8	5	24	学校（19年度採用者のうち1人は、当該年度の中途に退職）
駐 車 場 管 理	5	5	0	0	
施 設 管 理 清 掃	10	10	0	0	
施 設 運 営 管 理	5	4	0	1	労働福祉会館
マイクロバス運転	3	1	0	2	特別支援学校の児童･生徒の送迎
体 育 施 設 整 備	2	2	0	0	
計	63	40	7	29	

2） 高齢者生きがい創造センター管理運営

高齢者がもつ技能や経験を生かしながら、働く機会を提供するとともに健康増進及び地域社会との交流を図り、生きがい活動を推進している。

①おもちゃ病院

おもちゃ病院は高齢者の蓄積した技術と経験を生かし、子どもとふれあうことで高齢者の生きがいを高める。

一方、子どもたちは、おもちゃの構造を知ることで、科学心、創造力を養い、物の大切さを知ってもらうことを目的に実施している。

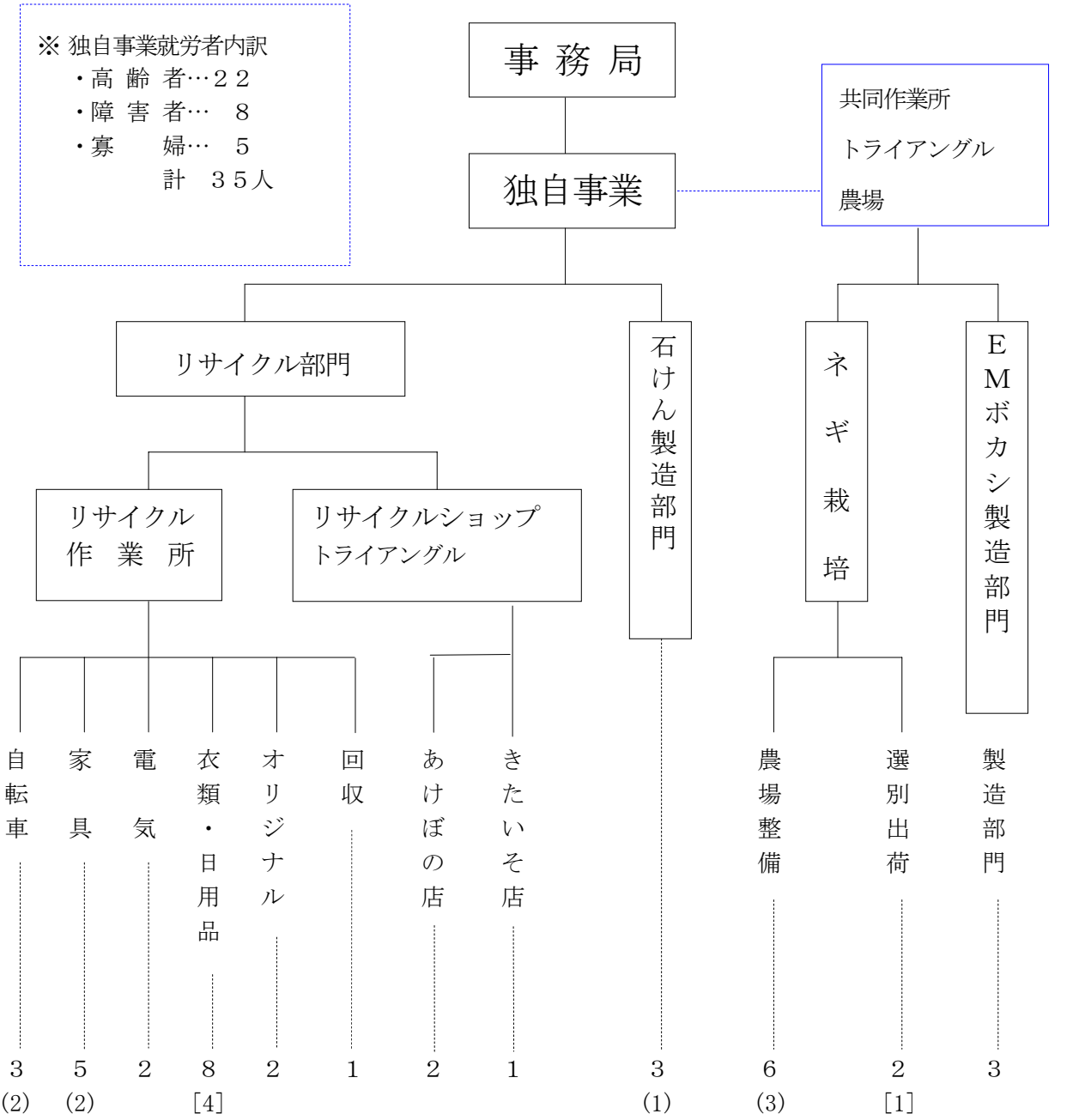
医師は、市民ボランティア３名及びリサイクル作業所就労者３名の計６名が従事し、毎週水曜日午後１時３０分から４時まで開院している。また、より親しまれるように、子供が休みの日にイベントなどに参加している。

②高齢者いきいき教室

高齢者（６０歳以上の市内居住者）の生きがいづくりと健康維持を目的に、生涯学習の機会を提供し、生活に創造的な豊かさを生みだす活動の場として「いきいき教室」を開催した。

（3） 独自事業

＜機　　構＞　　（平成２０年３月３１日現在）



※（　）内の数は障害者数、［　］内の数は寡婦の内数を示す。

1)リサイクル事業の実施

技術や技能を持つ高齢者、社会復帰訓練に励む障害のある人、不用品を無償提供していただく市民の協力により、リサイクル事業を実施している。

不用品の提供については、広報おおむた等により広く市民にＰＲを行っており、回収・配達・再生の作業も効率化を図っている。

愛のバザーやショップの売出し、十日市への出店を行った。廿日市への出店は平成１９年１２月までで修了した。

＜販売実績＞

今年度は３回の主催バザーを開催したが、前年度に比べバザー等の売上は５．０％、ショップ売上で９．０％減少し、売上額全体では前年度に比べ７．７％の減少となった。

主催・協賛のリサイクルバザーは、２６回（延べ２７日）実施した。

2)不用品回収実績と来店者数

不用品回収総件数は、前年度に比べ５件、１．２％の減少となった。来店者数は、直営ショップ２店舗になったため、「リサイクル愛のバザー」の入場者を含め、前年度に比べ５，２６０人、３１．０％の減少となった。

＜回収件数及び来店者数＞

	１８年度	１９年度	前年度比(%)
不要品回収総件数（件）	405	400	98.8
来店者総数（人）	16,956	11,696	69.0

3)石けん製造販売事業

石けんの製造は、高齢者２名、障害者１名で行っている。

製造実績では全体で１．１％増加したが、液体石けん、固形石けん、ＥＭ液体石けんはそれぞれ４．７％、７．８％、４２．３％の減少となった。

販売実績では、前年度に比べショップ、バサー・イベントでの売上は減少したが、全体では前年度と同様であった。

＜製造実績＞

	１８度（Kg）	１９度（Kg）	前年度比（%）
粉石けん	11,118	11,620	104.5
液体石けん	4,992	4,755	95.3
固形石けん	538	496	92.2
ＥＭ液体石けん	111	64	57.7
合　　計	16,759	16,935	101.1

＜販売実績＞

	１８年度（円）	19度(円)	前年度比（%）
直営リサイクルショップ	443,320	439,710	99.2
バザー・イベント	30,060	26,110	86.9
学校給食・公共施設等	2,582,507	2,606,434	100.9

(財)有明環境整備公社	1,260,000	1,260,000	100
合　　計	4,315,887	4,332,254	100.4

4） EM関連販売事業

① EMボカシ販売

生ゴミ用ボカシの販売事業は、家庭から出る生ゴミを良質な堆肥にするもので、使用方法については、直営３店舗、愛のバザーや廿日市等でのパンフレット配布等により啓発を行っている。

販売実績では、前年度に比べボカシは１０．９％の減、ＥＭ関連商品は５．５％の増となった。

② EM発酵液製造販売

ＥＭ発酵液は、家庭生活で水の浄化や消臭等、環境浄化に寄与するもので、発売５年目になるが、販売実績は、２リットル容器で１８２本、前年度に比べ２５．７％減少している。

＜販売実績＞

	１８年度（円）	１９年度（円）	前年度比（%）
ボカシ	388,660	346,300	89.1
ＥＭ関連商品	1,926,357	2,031,683	105.5

＜販売点数内訳＞

	１８年度（点）	１９年度（点）	前年度比（%）
ボカシ	1,784	1,671	93.7
ＥＭ関連商品	1,361	1,449	106.1
※ボカシ専用バケツ	40	23	57.5
※ＥＭ発酵液	245	182	74.3

※ボカシ専用バケツ、ＥＭ発酵液は、ＥＭ関連商品の内数を示す。

（4）就職支援能力開発特別訓練（リサイクル科）の実施

厚生労働省の「就職支援能力開発事業」に基づき、福岡県立大牟田高等技術専門校の委託を受け、次のとおり実施した。

○　訓練科目　　自転車、家具、家電製品の再生、家屋リフォーム
○　訓 練 生　　２０期生　２０人（定員２０人）
○　訓練期間　　平成１９年７月５日～１２月１２日　訓練時間　７３２時間

訓練生は、就職等による退校者２名を除き全員が卒業した。卒業者１８名の出席率は、平均で９４．７％と、昨年同様高い結果となった。

また、就職活動にも意欲的に取り組み、訓練に対しての関心の高さと、再就職への意欲を示すものと思われる。

訓練内容においては、各科目の反復訓練と複合訓練としての応用実技を充実し習熟度を高めた。

＊受託事業の減少や、本市によるセンターへの補助がＨ１９年度をもって廃止されること等取り巻く環境の変化の中、理事会の決議によりＨ１９年度末で解散となった。

２　社団法人大牟田市シルバー人材センター

(1)シルバー人材センターの概要

＜設　立＞

法 人 格　　社団法人

設立許可　　昭和６１年４月１日許可

　　昭和６１年２月２５日任意団体設立

＜目　的＞

働く意欲と能力をもった高年齢者（６０歳以上）に、生きがいづくりの場として臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、組織的に提供することによって、高年齢者の能力の積極的な活用を図り、もってその福祉の増進に資するとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

＜事業内容＞

① 高年齢者の就業に関する情報の収集及び提供

② 高年齢者の就業に関する調査研究

③ 高年齢者の就業に関する相談

④ 臨時的かつ短期的な就業（雇用によるものを除く）又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものを除く）を希望する高年齢者に対するこれらの就業機会の確保と組織的な提供

⑤ 臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものに限る）を希望する高年齢者のための無料職業紹介事業

⑥ 高年齢者に対する臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習の実施

⑦ その他高年齢者のための臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に関し必要な業務及びセンターの目的を達成するために必要な事業の実施

＜機　構＞　　（平成２０年３月３１日現在）

理 事 長 ――――役　　員（理事１５　監事　２）

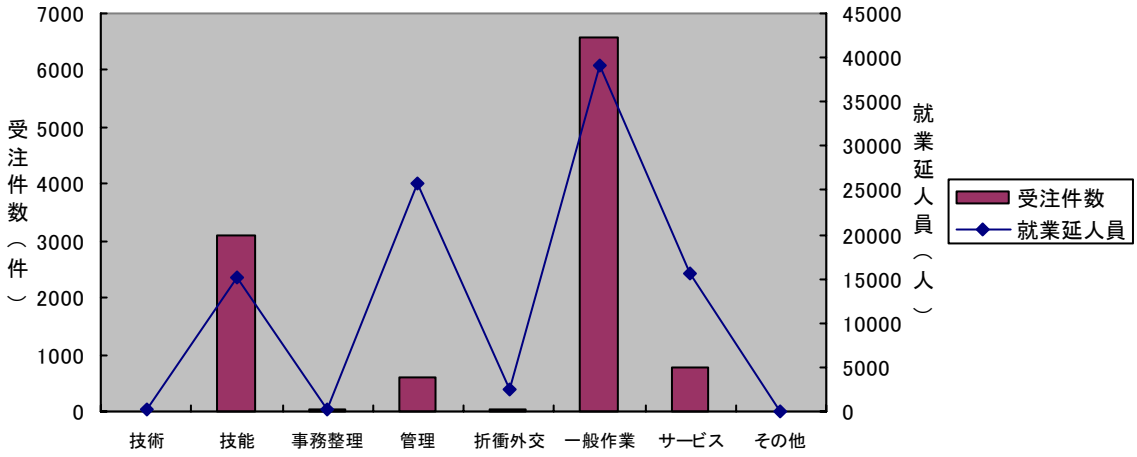
└――― 事務局長 ┬― 総務係長 ――― 総務担当（２名）

　　└― 業務係長 ――― 業務担当（４名）

(2)平成19年度事業実績及び会員数

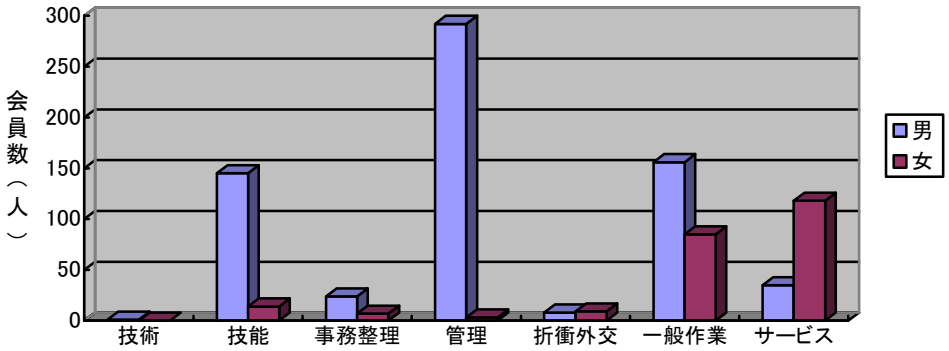
①事業実績（職種別）

区　　分	受注件数	就業延人数	事　業　収　入	構 成 比
技　　術	17	216	721,100	0.2%
技　　能	3,108	15,070	69,198,818	23.1%
事務整理	51	297	348,134	0.1%
管　　理	582	25,800	91,374,120	30.5%
折衝外交	20	2,596	3,587,720	1.2%
一般作業	6,567	39,137	96,595,308	32.2%
サービス	772	15,684	38,069,183	12.7%
そ の 他	0	0	0	0.0%
合　　計	11,117	98,800	299,894,383	100%



②会員数（希望職種別）

希望職種	男	女	計	構成比
技　　術	1	0	1	0.1%
技　　能	145	14	159	17.7%
事務整理	24	7	31	3.5%
管　　理	292	3	295	32.9%
折衝外交	8	9	17	1.9%
一般作業	156	85	241	26.9%
サービス	35	118	153	17.1%
計	661	236	897	100.0%



1）事業実績

厳しい経済環境の中、高齢者にふさわしい仕事を受注し、それぞれにあった仕事の提供を行い、高齢者の生きがい、福祉の増進、地域社会の活力に貢献することをめざしたところ、前年度と同様（前年度比 0.5%増）の実績を上げることができた。

2）自主的な組織活動の強化

理事会のもとに６専門委員会を設置し、それぞれの所掌事務について活発な意見交換がなされた。

①総　務　委　員　会・・・会員の福利厚生について
②業　務　委　員　会・・・雇用開発センター終息に伴うリサイクル事業（独自事業）の継承について
③適正就業委員会・・・会員の適正就業基準、就業期限基準等について
④安全・衛生委員会・・・安全就業対策基本計画、安全就業対策推進計画の策定について
安全パトロールの実施
⑤女　性　委　員　会・・・女性会員の就業機会の拡大、子育て支援事業について
⑥広　報　委　員　会・・・会報の編集、普及啓発用リーフレットについて

3）安全・衛生対策

安全・衛生委員会において就業中、途上に関する事故防止と安全確保、健康管理についての対策等を検討。

就業現場への巡回指導を実施。特に、事故が発生した時点で、事故現場での検証を実施すると共に広く会員へ周知することで安全対策に対する意識の高揚と事故防止に努めた。

4）地域への奉仕活動と普及啓発活動

地域への感謝の気持を込め、公共施設の剪定、市内で開催されるイベントへの清掃奉仕活動等、積極的に取り組んだ。

地域の新聞社を通して広報啓発文を掲載し、地域住民へＰＲ活動を行った。

5）生活管理指導員派遣事業

平成１９年度から「軽度生活援助事業」に代わり、市からの委託事業として、自立を支援する必要がある高年齢者を対象とした「生活管理指導員派遣事業」を行い、女性会員の就業拡大に努めた。

6）シニアワークプログラム事業講習会

高齢者の雇用・就業を促進することを目的とし、会員の技能・技術を高めるため、パソコン講習会、筆耕講習を実施した。

３　社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

根拠法令等	社会福祉法（第 109 条）	所 管 課	保健福祉総務課 地域福祉推進室

（1）社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法に位置付けられ、住民の社会福祉に対する関心と理解を深め、地域における社会福祉の増進に努めるという目的理念のもとに、都道府県市町村の全国すみずみまで設立されている。民間組織としての「自主性」と住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」という２つの側面をあわせ持った組織で、地域住民による福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施等を行い、地域福祉活動の中心的な役割を担っている。

平成１２年に社会福祉事業法が大幅に改正され社会福祉法となり、その第１０９条では、社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」であると明記された。

大牟田市社会福祉協議会は、昭和２６年に任意団体として発足し、昭和４７年に社会福祉法人の認可を受け、以来、大牟田市の地域福祉の推進役として住民のニーズにあった様々な事業活動を展開している。

現在は、「地域福祉と住民参加」をキーワードに、地域における様々な生活上の諸問題を地域全体の課題としてとらえ、みんなで考え、話合い、協力して解決を図る心ふれあう「誰もが安心して暮すことができるまちづくり」を目指し、校区社会福祉協議会とともに、見守り･相談･援助活動やボランティア派遣など様々な地域福祉活動に取り組んでいる。

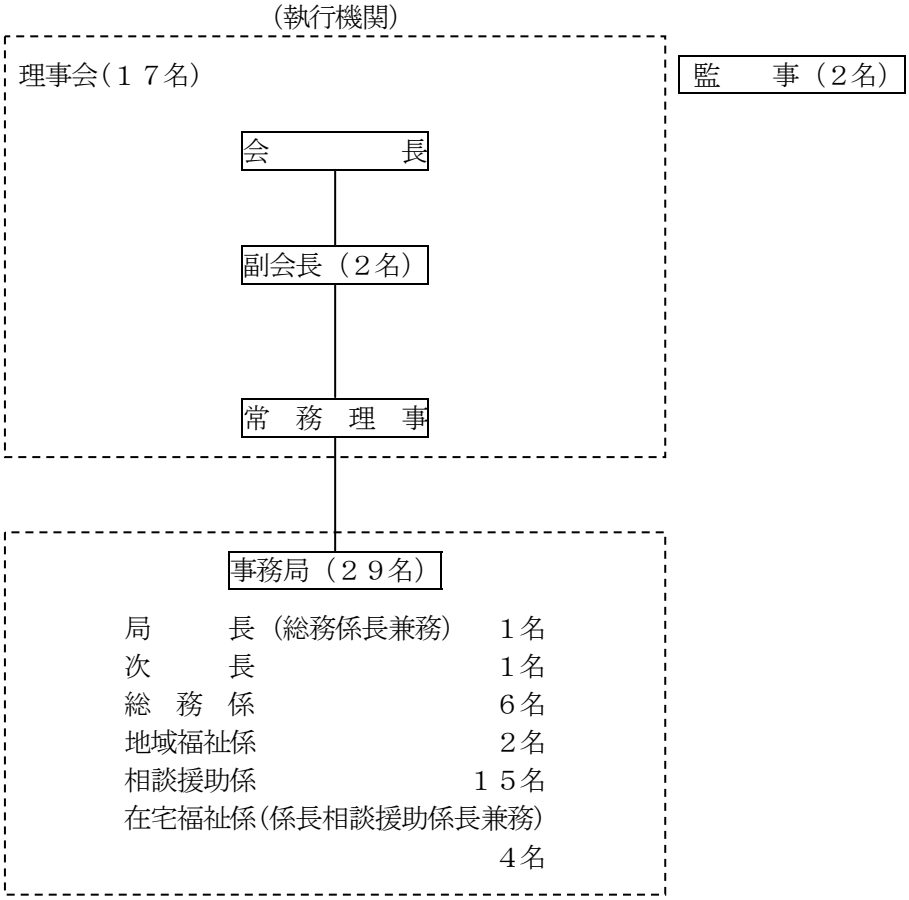
（2）社会福祉協議会の機構と組織構成

（平成 20 年 4 月 1 日現在）

評 議 員 会（３９名）　（議決機関）

評議員及び理事選出区分一覧表

区分	所属名	評議員	理事
1	校区社会福祉協議会代表	１８名	５名
2	民生委員・児童委員代表	3	2
3	町内公民館連絡協議会代表	1	1
4	女性代表	0	1
5	社会福祉事業施設代表	2	1
6	福祉団体代表	3	1
7	ボランティア団体代表	2	1
8	社会福祉関係公務員代表	2	1
9	市議会代表	2	2
１０	学識経験者	6	2
合計		３９名	１７名



（3）社会福祉協議会の実施事業

大牟田市地域福祉活動計画の３年目に当たる１９年度も、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる」まちづくりを理念として策定したこの計画に沿って、地域福祉活動の推進などを軸に取り組んだ。

活動指針１「住民参加による地域福祉活動の活性化」については、多様な福祉課題への迅速な対応を図るため、福祉委員研修会や活動報告会の開催等による小地域ネットワーク活動の推進強化、サロン事業の推進、福祉座談会や住民こんだん会の開催、団塊の世代を対象としたセミナーの開催等、地域を基盤とした福祉活動の支援に取り組んだ。また、ボランティアセンターでは、一人暮らし高齢者等の孤独感の解消などを目的とした傾聴ボランティアの養成を行い、住民のニーズに応じたボランティアの養成に取り組んだ。

活動指針２の「心温まる福祉サービスの提供」については、高齢者、障がい（児）者に対する介護事業をはじめ、児童･母子に対する諸事業や住民の悩みなどを解決に導く総合相談事業、低所得者等に対する貸付事業（県社協受託事業）に取り組みました。また、児童福祉対策事業である学童保育所の運営については、三池・高取・中友・白川の各学童保育所について、公募により市から５年間の指定管理者となった。さらにファミリー・サポート・センター運営事業については、18 年度に引き続き「フレンズピアおおむた」において、市が開設しているつどいの広場との連携により、総合的な子育て支援の拠点として事業を展開した。

活動指針３「本会の基盤強化」については、自主財源確保のために賛助会員の拡大、社協だよりへの広告掲載、福祉基金の活用、大牟田市立総合病院ショップのサービス向上等により増収を図ることができた。また、館内ＬＡＮを構築し、事務のＩＴ化や職員に対し経営状況の周知を図るなど情報の共有化を推進し、より効率的な業務遂行に努めた。

１）地域福祉の推進

①福祉委員制度と小地域ネットワーク活動の強化

平成 18 年度に福祉委員制度を設け、一人暮らしの高齢者や高齢夫婦世帯、障害がある人など、支援を必要とする人に声かけ・見守りや簡単な生活支援を行うことにより、地域の中での孤立を防ぐために、福祉委員、近所の協力者(ボランティア)や民生委員・児童委員と協力しながら、福祉のネットワークを広げている。

また、福祉委員の任務や活動内容について研修を行った。(研修対象福祉委員数　366 名)

開催日：8 月 17 日（金）　　追加研修：10 月 6 日（土)、2 月 5 日（火）

②「地域福祉活動実施計画」の推進

平成 19 年度から 20 年度までの 2 年間の予定で、羽山台校区をモデル校区に設定し、地域の福祉課題解決のため住民自らが参加し、きめ細やかな福祉活動を展開していくための組織づくりを盛り込んだ「羽山台校区社会福祉協議会地域福祉活動実施計画」を策定している。

③校区社会福祉協議会の支援

各校区社会福祉協議会相互の連携や地域福祉課題の解決と情報交換を目的として、年 6 回開催される連絡協議会を支援した。また、校区社会福祉協議会に対して、地域福祉活動の支援や情報交換を行った。

④住民こんだん会の実施

市内 23 校区を対象として 1 校区を 2～3 分割して開催し、地域住民と「隣近所のかかわり」や「身近な生活環境」等について意見交換を行いながら地域福祉活動への理解を深めた。

(住民こんだん会の実施状況)

校　区	回数	概　　要
上　官	1 回	日時:4 月 21 日(水)　　会場:上官公民館(40 人)
白　川	3 回	日時:5 月 28 日(月)・29 日(火)・30 日(水) 会場:白川中公民館(40 人)・上白川公民館(40 人)・鳥塚西公民館(36 人)
三　池	3 回	日時: 6 月 13 日(水)・20 日(火)・29 日(金)、 会場:大塔公民館(30 人)・平野公民館(50 人)・三池地区公民館(60 人)
川　尻	1 回	日時:7 月 18 日(水)　　会場:川尻小学校(40 人)
平　原	2 回	日時:8 月 20 日(月)・27 日(火)　　会場:くぬぎ(35 人)・たんぽぽ(40 人)
玉　川	1 回	日時:9 月 25 日(火)　　会場:勝立地区公民館(36 人)
駛馬北	1 回	日時:10 月 25 日(木)　　会場:駛馬地区公民館(30 人)
笹　原	1 回	日時:11 月 16 日(金)　　会場:勝立地区公民館(30 人)
手　鎌	3 回	日時:12 月 4 日(火)・5 日(水)・6 日(木) 会場:深浦公民館(40 人)・手鎌小学校(50 人)・手鎌公民館(20 人)
大牟田	2 回	日時:1 月 18 日(金)・29 日(火) 会場:リビング・アエル(35 人)・中央公民館(40 人)
明　治	2 回	日時:3 月 14 日(金)・21 日(金)　　会場:明治会館(35 人)・明治会館(40 人)

⑤団塊の世代を対象とした事業（暮らしと福祉の地域塾～よか余暇ライフセミナー）

地域福祉活動やボランティア活動のきっかけづくりと実践的なボランティア活動を通して地域福祉活動への橋渡しを行い、活動を担う次の世代を養成する講座を開催した。

(セミナーの実施状況)

講　座　名	概　　要
暮らしと福祉の地域塾～ よか余暇ライフセミナー	期　間　：　平成 20 年 1 月 23 日（水)～3 月 26 日（水）　　6 回 会　場　：　総合福祉センター　　受講者　：　　人

回	開 催 日	内　　容	講　　師
1	1 月 23 日（水）	私の身近な福祉 パート① 年金ってどうなってるの？	社会保険労務士 黒田　隆二　氏
2	2 月 13 日（水）	私の身近な福祉 パート② 生活習慣病ってなんだろう？	大牟田市保健所長 西岡　和男　氏
3	2 月 27 日（水）	私の身近な福祉パート③ ご近所の福祉事情はどうなってるの？	久留米大学 文学部 社会福祉学科 教授　松尾　誠治郎　氏
4	3 月 1 日（土） 3 月 2 日（日）	地域のイベントに参加してみよう！	三池初市
5	3 月 12 日（水）	ボランティア活動体験談 いろんなボランティア活動を聞こう	事例発表：　古賀　勝彦　氏 汐待　律子　氏 宮崎　ひとみ　氏 コーディネーター： （株）アーバンデザインコンサルタント　取締役　十時　裕　氏
6	3 月 26 日（水）	私にできることを話し合ってみよう	（株）アーバンデザインコンサルタント　取締役　十時　裕　氏

⑥サロン事業の推進

地域に住む高齢者や子育世代で、支援を必要とする人達が集まる憩いの居場所づくりに努めた。（登録サロン数　35 団体）

⑦ふれあい・にこにこサロンボランティア養成講座

高齢者や子育て世代を支援するための知識を身につけ、地域で活動することができるボランティアの養成講座を開催した。

（講座の実施状況）

1 回目	期　間：平成 19 年 6 月 13 日（水）～6 月 27 日（水） 会　場：総合福祉センター　　受講者：14 人
2 回目	期　間：平成 19 年 11 月 13 日（火）～11 月 27 日（火） 会　場：三川地区公民館　　受講者：16 人

⑧福祉座談会の実施

地域における困りごとや福祉課題について校区社協と市社協がともに考え、情報の共有や活動の相互理解を深めるために 23 校区社協を対象に開催した。

（福祉座談会の実施状況）

月　日	校　区	月　日	校　区	月　日	校　区
5 月 24 日	手　鎌	8 月 30 日	白　川	2 月 7 日	みなと
7 月 10 日	明　治	9 月 8 日	銀　水	2 月 28 日	大　正
7 月 10 日	笹　原	10 月 12 日	川　尻	3 月 11 日	平　原
7 月 12 日	天　道	10 月 20 日	吉　野	3 月 13 日	中　友
7 月 14 日	上　官	10 月 27 日	上　内	3 月 25 日	駛馬北
7 月 17 日	三　池	11 月 2 日	高　取	3 月 28 日	大牟田

7月21日	玉　川	11月 7日	駛馬南	モデル事業振替	羽山台
7月22日	倉　永	11月30日	諏　訪		

⑨災害見舞金の支給

法外援護事業として火災等の被災者に災害見舞金を支給した。

	17年度	18年度	19年度
件　数	10	23	12
支給額	50,000	230,000	120,000

⑩校区連協会長・民児協会長・社協会長合同研修会

校区連協会長・校区民児協会長・校区社協会長・合同研修会を開催し、お互いの連携を図った。

開催日　：　平成19年8月29日(火)
会　場　：　総合福祉センター
内　容　：　・「これからの“まち”のあり方を考える」
　　講師　株式会社アーバンデザインコンサルタント　十時　裕　氏
　　・羽山台校区地域福祉活動モデル事業について(経過報告)
参加者　：　70名

⑪校区社協会長視察研修

校区社協の福祉活動の取組みに反映させることを目的として先進地を視察した。

視察日　：　平成19年11月7日(水)
研修先　：　北九州市若松区　高須地区社会福祉協議会　高須市民センター
内　容　：　高須地区社会福祉協議会のふれあいネットワーク事業について
参加者　：　23名

⑫活動助成

地域福祉の向上を図る次の団体等に対して助成を行った。

・23校区社会福祉協議会
・大牟田市校区社会福祉協議会会長連絡協議会
・大牟田市民生委員・児童委員協議会

2）ボランティアセンター事業の実施

①コーディネート機能の強化（ボランティアの登録・斡旋）

ボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、登録・斡旋に努めた。

(ボランティアセンターの登録状況)

区　分＼年度	17年度	前年比(%)	18年度	前年比(%)	19年度	前年比(%)
グループ(団体)	54	103.8	57	105.5	52	91.2
個　　人(人)	322	112.2	351	109.0	195	55.6

（ボランティアの斡旋状況）

	主な斡旋内容	17年度件数	前年比（%）	18年度件数	前年比（%）	19年度件数	前年比（%）
個　人	散髪、家屋内外の小修理、外出支援等	48	94.1	53	110.5	27	50.9
団　体	散髪、デイサービスでの催事、学童での催事、各種イベント等	102	102.0	195	191.2	149	76.4
学　校	障害者との交流、手話・点字の学習、車いす・アイマスク・高齢者疑似体験	71	101.4	55	77.5	38	69.1

②ボランティア実態調査

ボランティア活動が多種・多様化する中で、よりニーズに合った適確なコーディネートを行うため、ボランティアセンターの登録団体・個人に対してボランティア活動意向と福祉関係団体等に対する受入れについて、実態調査を行い、現在、集計している。

③福祉教育の推進

小・中学校を対象として、福祉教育を推進し社会福祉への理解と関心を高めるとともに、ボランティア活動と地域福祉活動への参加促進を図った。

・ **福祉教育推進校の指定及び育成**

児童・生徒の福祉教育の推進を目的として、中学校11校、小学校23校を福祉教育推進校に指定し、視覚・聴覚障害者の人などを講師（ゲストティーチャー）として派遣した。

（派遣状況）

	17年度	前年比（%）	18年度	前年比（%）	19年度	前年比（%）
派遣件数	71	101.4	55	77.5	38	69.1

・ **福祉教育推進校連絡会の開催**

福祉教育推進校が相互の連携を図るとともに研修や情報交換を行うため、連絡会を開催した。

④傾聴ボランティア養成講座

コミュニケーションの希薄化から様々な社会問題が生じている中、相手の気持ちに寄り添って話を聴くことの大切さ、話し相手になることの基本や心構えを学び、一人暮らし高齢者等の孤独や不安を解消するボランティアの養成講座を開催した。

（傾聴ボランティア養成講座の実施状況）

講　座　名	概　　要
傾聴ボランティア養成講座	期　間　：　平成19年10月30日（火）～11月20日（火） 4回　午後1時30分～3時30分 会　場　：　総合福祉センター 受講者　：　31人

⑤手話・要約筆記ボランティア派遣

聴覚障害者の社会参加を促進するために、障害者体育大会、福祉活動、文化活動、通院等に手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣した。

（派遣状況）

派遣内容＼年度		17 年度	前年比 (%)	18 年度	前年比 (%)	19 年度	前年比 (%)
手　話	派遣件数	226	83.1	226	100.0	193	85.4
	奉仕員数	281	74.0	282	100.3	227	80.5
要　約	派遣件数	9	34.6	9	100.0	8	88.9
	奉仕員数	21	24.4	21	100.0	19	90.5

⑥ボランティア活動保険の加入状況

地域行事やボランティア活動等を支援するため、ボランティア活動保険の加入受付を行った。

	17 年度	前年比 (%)	18 年度	前年比 (%)	19 年度	前年比 (%)
加入者数	2,675	89.5	2,929	109.5	3,325	113.5

⑦情報提供と啓発

ボランティア活動の活性化を図るために、ボランティアセンターの役割や活動の内容等を掲載したパンフレットの配布や社協だより等により、ボランティア活動の情報提供や啓発に努めた。

⑧ボランティア団体活動助成

ボランティア活動を推進するため、次の団体に対し助成を行った。

・点訳奉仕「大牟田むつき会」
・大牟田手話の会「ありあけ」
・大牟田朗読の会
・大牟田「つくしの会」
・大牟田要約筆記の会のぞみ
・大牟田市ボランティア連絡協議会

３）総合相談事業の実施

①地域福祉権利擁護事業（福祉サービス利用援助相談）

認知症高齢者、知的障害者、精神障害者など判断能力が不十分なため日常生活に困っている人に対して、生活支援員を派遣し、自立した生活ができるよう福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等を行った。

	17 年度	前年比 (%)	18 年度	前年比 (%)	19 年度	前年比 (%)
人　　数	12	120.0	15	125.0	16	106.7
件　　数	168	146.1	186	110.7	167	89.8

②福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合、「第三者委員会」でその解決を図るため設置している。

③心配ごと相談

毎週火曜日に面接と電話による心配ごと相談事業を実施し、住民が抱える生活課題等の悩みの相談に応じた。

	17 年度	前年比 (%)	18 年度	前年比 (%)	19 年度	前年比 (%)
面接件数	78	70.2	41	52.6	52	126.8
電話件数	65	79.3	45	69.2	43	95.6

④法律相談

毎月第 3 水曜日に弁護士による法律相談事業を実施し、複雑多様化する住民の相談に対して、法的な解決、高度な対処法について専門的なアドバイスを行った。

	17 年度	前年比 (%)	18 年度	前年比 (%)	19 年度	前年比 (%)
件　　数	144	101.4	119	82.6	93	78.2

4）高齢者福祉対策の推進

①介護保険事業

訪問介護事業（ホームヘルプサービス）・訪問入浴介護事業（入浴サービス）・居宅介護支援事業（ケアプラン作成）を実施した。

（事業実績・件数）

	17 年度	前年比 (%)	18 年度	前年比 (%)	19 年度	前年比 (%)
訪問介護	10,634	90.5	9,449	88.8	8,004	84.7
訪問入浴介護	420	71.9	528	125.7	470	89.0
居宅介護支援	1,171	93.1	836	71.4	459	54.9

②介護予防・相談センターの運営（市受託事業）

地域包括支援センターのサブセンターとして、上官・平原校区を担当し、介護認定により要支援と認定された高齢者及び配食サービス等の保健福祉サービス利用希望者等に対して、介護予防プランを作成（476 件）するとともに定期的な訪問を行うことにより高齢者の心身の健康保持、生活の安定のために必要な支援を関係機関、サービス実施事業者等と連携して実施した。

③在宅介護者の会の活動支援

在宅介護者に対する情報提供、介護負担の軽減、相互交流を目的とする「在宅介護者の会」（会員数 25 人）の活動支援を行った。

・定例会及び介護相談の開催（月 1 回）
・リフレッシュ事業（年 2 回）

④福祉機器貸与事業（特殊寝台・車イス）

在宅の要援護高齢者等に対して、特殊寝台などを無料又は低額で貸与することにより、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図った。

⑤福祉団体活動助成

高齢者の福祉の増進を目的とする大牟田市老人クラブ連合会に対して助成を行った。

５）障害（児）者対策の推進

①障害者社会参加促進事業（市受託事業）

障害者の自立と社会参加の促進を図るため、手話、朗読、点訳、要約筆記の各奉仕員養成講座の実施や手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣した。

・ 奉仕員養成講座の実施

（各講座の実施状況）

講　座　名		概　　要
手話奉仕員 養成講座	入門	期　間 ： 平成 19 年 5 月 17 日～10 月 18 日　(22 回) 毎週木曜日　午後 6 時 30 分～8 時 30 分 会　場 ： 総合福祉センター 受講者 ： 36 人
	基礎	期　間 ： 平成 19 年 7 月 21 日～12 月 1 日　(17 回) 毎週土曜日　午後 1 時～4 時 会　場 ： 総合福祉センター 受講者 ： 20 人
朗読奉仕員 養成講座		期　間 ： 平成 19 年 5 月 31 日～8 月 2 日　(10 回) 毎週木曜日　午後 1 時 30 分～3 時 30 分 会　場 ： 総合福祉センター 受講者 ： 26 人
点訳奉仕員 養成講座		期　間 ： 平成 19 年 5 月 18 日～7 月 20 日　(10 回) 毎週金曜日　午後 6 時 30 分～8 時 30 分 会　場 ： 総合福祉センター 受講者 ： 11 人
要約筆記奉仕員 養成講座	基礎	期　間 ： 平成 19 年 7 月 28 日～10 月 13 日　(11 回) 毎週土曜日　午後 2 時～5 時 会　場 ： 総合福祉センター 受講者 ： 10 人
	応用	期　間 ： 平成 20 年 1 月 12 日～2 月 23 日　(7 回) 毎週土曜日　午後 2 時～5 時 会　場 ： 総合福祉センター 受講者 ： 8 人

（養成講座の修了状況）

講座名＼年度		17 年度	18 年度	19 年度
手　話	受講者	48	46	56
	修了者	35	35	46
	入会者	13	18	24
朗　読	受講者	18	12	26
	修了者	15	10	17
	入会者	8	8	15
点　訳	受講者	6	11	10
	修了者	3	10	9
	入会者	1	4	9

要約筆記	受講者	7	33	18
	修了者	3	28	15
	入会者	3	11	5

・　**点字・声の広報発行**

視覚障害者が地域生活をするうえで必要な情報などを点訳（点訳奉仕大牟田むつき会）、音訳（大牟田朗読の会）の方法により、定期的に提供した。

②障害者自立支援サービス事業

在宅の身体・知的障害者に対して、ホームヘルプサービスやガイドヘルプサービスを実施した。

（事業実績）

	17 年度	前年比（%）	18 年度	前年比（%）	19 年度	前年比（%）
ホームヘルプ派遣数	1,662	148.0	1,676	100.8	1,564	93.3
ガイドヘルプ派遣数	1,124	104.7	770	68.5	1,290	167.5

③入浴サービス事業（市受託事業）

在宅の重度障害者に対して、市の委託を受け実施した。

（事業実績）

	17 年度	前年比（%）	18 年度	前年比（%）	19 年度	前年比（%）
入浴サービス	180	97.3	160	88.9	233	145.6

④福祉機器貸与事業

在宅の障害者等に対して、特殊寝台などを無料又は低額で貸与することにより、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図った。

⑤福祉団体活動助成事業

障害（児）者の福祉向上を図る次の団体等に対して助成した。

・大牟田市身体障害者福祉協会連合会
・知的障害（児）者団体
・大牟田市身体障害者相談員協議会
・小規模授産・共同作業所（５ヶ所）

６）児童・母子福祉対策の推進

①放課後児童健全育成事業（学童保育所・指定管理運営）

放課後児童対策として、昼間児童の養育ができない家庭などの児童（小学校 1 年生～概ね小学校 3 年生）に対して、適切な遊びと生活の場を提供することにより、児童の健全育成を図った。

（入所児童数・平成 20 年 3 月 31 日現在）

学童名	児童数	学童名	児童数
三　池	38	みなと	30
高　取	26	白　川	41
中　友	36	大牟田	41

②ファミリー・サポート・センター事業（市受託事業）

子育てのお手伝いをしたい人（協力会員）と子育ての手助けをしてほしい人（利用会員）との相互援助活動を行った。

・ 協力会員養成講座の開催

第１回	6 月 7 日（木）～7 月 12 日 （木）6 日間（9 人の登録）
第２回	11 月 2 日（金）～11 月 22 日（木）6 日間（9 人の登録）

・ 会員数及び活動状況

（会員数）

	17 年度	前年比(%)	18 年度	前年比(%)	19 年度	前年比 (%)
利用会員	532	144.6	652	122.6	660	101.2
協力会員	104	113.0	107	102.9	103	96.3
利用・協力会員	66	100.0	66	100.0	74	112.1
合　　計	702	133.5	825	117.5	837	101.5

（活動状況）

内　　容	17 年度 件数	18 年度 件数	19 年度 件数
保育所・幼稚園・学校・学童の登園登所前の預かり及び送り	149	80	59
保育所・幼稚園・学校・学童の迎え及び帰宅後の預かり	523	508	453
子供の病気時の援助	53	18	31
子供の習い事等の場合の援助	368	483	378
保育所・学校等休み時の援助	25	17	16
保護者等の短時間・臨時的就労・求職活動中の援助	58	25	47
保護者の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	14	9	2
保護者等の外出の場合の援助	79	70	91
保護者の病気、その他急用の場合の援助	44	15	2
その他		9	53
合　　計	1,313	1,234	1,132

③福祉団体活動助成

母子寡婦の福祉向上を目的とする大牟田市母子寡婦福祉会に対して助成した。

７）生活福祉資金貸付事業の実施（県社協受託事業）

低所得者、高齢者や障害者等の世帯に対して、各種資金の貸付を行った。

（貸付状況）　　（単位:千円）

	17 年度		18 年度		19 年度	
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額
更　　生	1	967			1	800
福　　祉	1	300	1	1,109	2	1,602

住　　宅						
修　　学	13	18,340	8	17,883	7	17,528
災　　害						
療　　養	1	375				
離職者支援	1	600				
緊急小口	1	50	2	100	4	253
合　　計	18	20,632	11	19,092	14	20,183

8）大牟田善意銀行への預託

（預託状況）　　（単位：円）

		17年度	前年比(%)	18年度	前年比(%)	19年度	前年比(%)
一般寄付金	件数	567	105.2	572	100.9	533	93.2
	金額	11,119,918	111.3	11,389,441	102.4	9,896,934	86.9
指定寄付金	件数	21	46.7	55	261.9	—	—
	金額	1,023,000	64.3	1,223,000	119.6	—	—
計	件数	588	100.7	626	106.5	533	85.1
	金額	12,142,918	104.9	12,612,441	103.9	9,896,934	78.5
物品寄贈件数		36	109.1	34	94.4	21	61.8

9）賛助会員の拡大

地域住民とともに地域福祉を推進していくため、周知と会員の拡大に努めた。

（会員数の推移）

	１７年度	前年比(%)	１８年度	前年比(%)	１９年度	前年比(%)
会員数	303	90.1	410	135.3	412	100.5
金　額	369,000	92.5	605,000	164.0	651,600	107.7

１０）市立総合病院ショップの運営

（事業実績）

	１７年度	前年比(%)	１８年度	前年比(%)	１９年度	前年比(%)
売上金（円）	73,029,968	96.0	72,729,586	99.6	75,698,291	104.1
客　数（人）	193,394	93.0	189,462	98.0	186,285	98.3

１１）共同募金運動の実施

赤い羽根共同募金運動及び歳末たすけあい募金運動について、福岡県共同募金会大牟田市支会と連携して取り組んだ。

（募金実績）　　（単位：円）

	17 年度	前年比(%)	18 年度	前年比(%)	19 年度	前年比(%)
赤い羽根共同募金	17,650,065	99.9	17,677,986	100.2	17,583,100	99.5
歳末たすけあい募金	3,448,946	87.0	3,510,291	101.8	3,334,042	95.0

１２）ふれあい福祉まつりの実施

「もしも災害が起きたなら…災害に対する意識を」をテーマに、大牟田市ボランティア連絡協議会との共催で「ふれあい福祉まつり」を開催し、併せて社会福祉事業功労者を表彰した。

開催日　：　平成 19 年 11 月 25 日（日）
会　場　：　大牟田市総合福祉センター
内　容　：　式　　典　社会福祉事業功労者表彰
　　屋内行事　災害に関するパネル展示、ボランティアグループによる催し、地域福祉活動・共同募金関係資料展示
　　屋外行事　地震体験車の乗車、消防体験（AED、人工呼吸法、水消火器）、レストラン・バザーコーナー
参加者　：　約 500 人

（被表彰者）

区分	表彰対象	推薦基準	人数
表彰	ア．市社協役員・評議員	在任期間 4 期以上のもの	0
	イ．校区社協における実践活動者	10 年以上校区における地域福祉推進活動が特に顕著と認めるもの	19
	ウ．優良校区社協	地域福祉活動が他の校区の模範となるもの	1
	エ．ボランティアセンター登録者・団体	登録 10 年以上のもので、ボランティア活動が特に顕著と認めるもの	2
	オ．その他特に認めるもの		0
感謝	ア．市社協役員・評議員	在任期間 2 期以上のもの	0
	イ．校区社協における実践活動者	5 年以上校区における地域福祉推進活動が顕著と認めるもの	57
	ウ．ボランティアセンター登録者・団体	登録 5 年以上のもので、ボランティア活動が顕著と認めるもの	7
	エ．市社協事業運営協力者	登録 5 年以上のもので、市社協事業に協力・貢献したもの	4
	オ．善意銀行高額寄付者	10 万円以上の金品寄贈者	11
	カ．その他特に認めるもの		1
合計			102

１３）機関紙の発行

社協だよりを年 4 回（4 月、7 月、10 月、1 月）発行した。また、社協だよりの見直しに取り組み、読者に関心をもってもらうため、記事の内容の一新とカラーページの採用を行った。

１４）総合福祉センターの運営

（利用状況）

	17 年度	前年比(%)	18 年度	前年比(%)	19 年度	前年比(%)
会議室等利用件数	2,257	96.3	1,725	76.4	1,293	75.0
ヘルストロン利用者数	17,142	86.4	15,998	93.3	14,729	92.1
年　間利用者数	51,348	96.3	43,760	85.2	46,349	105.9

１５）各種委員会の開催状況

（大牟田市地域福祉活動計画推進委員会の開催状況）

会　議　名	開 催 日	内　　容
第 4 回推進委員会	2 月 25 日	大牟田市地域福祉活動計画の進捗状況について

（大牟田市社会福祉協議会介護保険事業検討委員会の開催状況）

会 議 名	開 催 日	内　　容
第 4 回検討委員会	3 月 6 日	大牟田市社会福祉協議会介護保険事業の現状について

（表彰審査委員会の開催状況）

会 議 名	開 催 日	内　　容
表彰審査委員会	10 月 22 日	大牟田市社会福祉協議会表彰推薦審査

・大牟田市地域福祉活動計画推進委員会　2 回（6 月 16 日、10 月 30 日）
・表彰審査委員会　1 回（10 月 12 日）

１６）その他

①職員の資質向上のための取組み

情報収集や見識を広げることを目的に、県社協主催をはじめとした外部研修会に参加した。また、館内ＬＡＮを構築し、職員に対し経営状況の周知を図るなど、情報の共有化に努めた。

②福祉バスの運用

校区社会福祉協議会や福祉団体等の活動の推進と利便を図るため、福祉バスを延 86 回貸し出した。

③リフト付バスの運用

交通手段の確保が困難な方を対象に、車いすのまま乗降できるリフト付きバスを貸し出した。

④役員研修会の実施

開催日　：　平成 19 年 7 月 6 日（金）、参加者　：　15 人
内　容　：　小地域福祉活動への期待と福祉のまちづくり
講　師　：　筑紫女学園大学文学部准教授　山﨑安則氏